

## 第77回開校記念祭式辞

第77回開校記念祭の開会にあたり 本校の創設時に尽力された小池善雄先生の回想文と当時の在校生が記した小池先生との思い出をそれぞれほんの一部ですが紹介します

敗戦によって古きものは根底からくつがえされ 新しいものが生れ出ようとしているときである 教育もまた新しい制度のもとに 新しい目標を掲げて再出発しようとしている 新日本にふさわしい 理想的な学校をつくるには絶好の機会である 私は 日夜精魂を傾けた

ところが 文部省から与えられた初年度の経費は 兵舎の倉庫を教室らしきものに改造し 必要数の机といすを揃えるだけでほとんどいっぱいということであった 理想と現実との間には常に距りがあり それに苦しむのが人生の姿であるとは よく承知していることではあったが これはまたあまりにもみじめすぎると思った

初代主事 小池先生が入学式の翌日 校舎の裏の岩草萌える広場で 松下村塾の吉田松陰が塾生を激励した故智にならって 次のように私たちの志気を鼓舞された われらの付属も小粒ではあるが 新国 即ち新日本の幹たる意気をもって進もうではないか

そして授業が開始された ビーカーもない 試験管もない 生徒の家庭から空き瓶や空き缶を集めて理科の授業が始まった そして5月二年生の教材にカエルが登場した 薄暗い倉庫の片隅にカエルの卵やオタマジャクシが入った空き瓶や空き缶が所狭しと置かれた実験室が誕生した

皆さん この学校が創設されたその時の情景をほんの少し思い描いていただけたでしょうか 創設者の想い そしてここで学んだ卒業生の想いはこの学び舎に広く深く染み込んでいることでしょうか そして 君たちは君たちの想いをこの学び舎に染み込ませるのでしょ う どん な 想 い を 染 み 込 ま せ る の か 次の世代に何を渡すのか とても楽しみです

創立当時の想いを心の片隅に置いて 発展させてほしいと願います。

最後になりましたが 厳しいスケジュールの中 連休中も準備にあたってくださった たくさんの方々から感謝を申し上げ 開校記念祭式辞といたします

令和6年9月27日

金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 校長 南波 聡